

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100446
法人名	医療法人 起生会
事業所名	グループホーム こ・こ (Co・Co)
訪問調査日	平成 20 年 9 月 1 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 7 日
評価機関名	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205号

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4390100446		
法人名	医療法人 起生会		
事業所名	グループホーム こ・こ (Co・Co)		
所在地	熊本市坪井3丁目9番27号 (電話) 096(284)5100		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205号		
訪問調査日	平成20年9月1日	評価確定日	平成20年10月7日

## 【情報提供票より】(20年8月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.4 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての		2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,400 円	その他の経費(月額)	無 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:48ヶ月)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(8月4日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 88 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	表参道吉田病院・川島整形外科・長野皮膚科形成外科・堤歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部にありながら幹線道路を入った住宅地に立つホームは、昔ながらの商店や個人住宅に囲まれた静かな佇まいの中にあり、真新しいおしゃれな外観である。三階建ての建物は一階がデイサービス、二階がホームとなっている。地域の人々と共に支えあい、地域貢献を目的とし母体医療機関の協力・支援を得ながら入居者の有する能力に応じ自立した日常生活が送れるよう、管理者のリーダーシップのもと全職員で取組んでいる。待機者も多いことから申請中の三階ユニットの早急な開所が待たれる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価については、職員が項目に沿って自己評価を行い改善点を見出し、優先順位を決め改善に向け取組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議のメンバーは自治会長、民生委員、婦人会といった地域の代表と家族、職員となっている。会議を通じ行事や入居者の現状を報告するとともに、認知症に対する理解を深めてもらうため管理者が講話をするなど情報発信の場としている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に家族からの意見や要望を受け付ける意見箱を設置している。又、面会時には入居者の近況報告と共に意見要望を聞く機会としている。家族の要望に対しては職員で話し合い早急な対応が図られている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会を通じホームでの行事を回覧板で知らせ参加を呼びかけたり、近隣の清掃活動への参加や食材、おやつの購入を地元商店街で行いホーム周辺の施設や人々との交流を図っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム名Co・CoはCommunity地域(共同体)・Cordial(真心のこもった)を意味し、その名の通り地域の中で心の通った介護をめざす事業所の思いが込められている。「地域の皆様に親しまれ、真心のこもった介護サービスの提供を実現します」を理念とし地元根ざした質の高いケアの実現に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がいつでも認識を持って取り組めるようホーム内の玄関やキッチンに掲示している。今後、更なる理念の浸透に向け毎月のミーティングにて共有化を図りたいとしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じホームでの行事を回覧板で知らせ参加を呼びかけたり、近隣の清掃活動への自主的な参加や食材・おやつを地元の商店で入居者とともに購入するなど、ホーム周辺の施設や人々との交流を図りながら、入居者自らが自然に地域に溶け込めるよう支援している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての評価を受けるにあたり、職員が項目に沿って自己評価を行い改善点を見出し、改善計画シートに優先順位を定め、改善期間を設定し外部評価に臨んでいる。既に改善に向け取り組んでいるところであり全職員が意識を高く持っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは自治会長、民生委員、婦人会といった地域の代表と家族、職員となっている。会議を通じ行事や入居者の現状を報告するとともに、認知症に対する理解を深めてもらうため管理者がミニ講話をするなど情報発信の場としている。	○	会議の議事録を玄関に設置しており閲覧可能な状態であるが、遠方の家族もおられるため郵送することで会議への関心に繋げていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と連絡をとり指導を仰いだり、相談に応じてもらうなど行政とのやり取りを通じてホーム運営に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の近況を話したり、毎月の報告書には写真を添え入居者の様子を伝えている。又、特変があればその都度家族へ連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に家族からの意見や要望を受け付ける意見箱を設置している。又、面会時には入居者の近況報告とともに、意見・要望を聞く機会としている。季節感や盛り付けに工夫が欲しいとの献立に対する家族の要望に早急に対応し、旬の食材を取り入れ盛り付けや器にも配慮し目で楽しむ食事を提供している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後一名の退職者があったが、入居者への影響を考え法人内の異動は殆ど行われておらず職員と入居者の穏やかな関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修への参加をできるだけ勧めている。外部研修での資料はファイルし目を通すことで全員の共有としている。日々のケアの方法や入居者への対応のあり方について、管理者はその都度気づきを助言している。	○	管理者は職員のレベル向上に前向きであり、外部研修と同様内部研修の充実を勧めている。今後も計画的な勉強会の実施と、管理者自らの持つ介護や看護の経験を職員の育成に活かしていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のグループホーム協議会や、熊本県宅老所グループホーム連絡会へ加入し、同業者との勉強会を通じ情報交換や職員のレベル向上に努めている。又、信頼を寄せるグループホーム管理者に機会あるごとにアドバイスをもらいホーム運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至った経緯や生活歴を全職員が把握し、入居後は職員がいつも身近に寄り添いながら入居者の話をゆっくり傾聴するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の長年の経験を伝授してもらいながら、人生の大先輩として尊重し敬う姿勢が職員と入居者の関わりよりうかがえる。先人の知恵を借りながら、共に行う梅干作り・ラッキョウ漬け・干し柿作りは入居者の楽しみとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族からの要望や思いを聴取し、個々の生活歴にも配慮しながらその人らしい生活を送れるよう継続したケアの実践に向け努力している。夫婦で入居されている方へは向かい合わせの居室を提供し、共同生活の中にもお二人の家族としての生活も大切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族のアセスメントをベースに立案し、夜勤者の気づきや職員の意見を出し合いプランに反映させている。又、日頃より面会時や電話連絡の際には要望を尋ねるなど家族の思いの把握に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごと又は必要に応じ随時モニタリングで見直しをおこなっている。その際家族への説明も確実に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や受診・理美容対応・銀行への付き添いなど柔軟に対応している。又、併設の一階デイサービスでボランティアによる行事に参加する機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じ、これまでのかかりつけ医の受診も可能であることを入居前に説明している。夜間診療の点から全入居者・家族が母体医療機関を希望し、かかりつけ医となっている。これまで必要に応じ歯科・皮膚科の訪問診療も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについての指針を作成し同意も得ている。入居者の平均年齢や医療依存の高い方もおられ日頃より家族・主治医・職員との話し合い、連絡を密にとり情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルを作成し、入居者個々のこれまでを尊重し誇りやプライバシーを大切にされた対応を心がけている。排泄支援では、便座へ座られた時点で離れて見守ったり、入浴・排泄介助時の声かけ、申し送り時の入居者名使用など十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れや予定はあるものの、できる限り一人ひとりのペースを大切にされた暮らしとなるよう当日の勤務者で話し合い希望に沿った支援に努力している。本人の思いや要望を自然に受け入れようとするホームの姿勢が、職員の語りかけや入居者の表情からもうかがえ、家族の信頼に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れ、旬の食材を使用し見た目にも食欲をそそる。行事食・バイキング・手作り弁当・外食など楽しい食事支援の様子がアルバムや入居者同士の会話でも確認できた。台拭きや盛り付け・茶碗拭きなど入居者のできることを支援している。職員も同じものを一緒に食べ和やかな時間であった。	○	おしぼりをそれぞれに用意すると、入居者も身だしなみの大切さを持ち続ける支援に繋がると思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。入浴剤の使用や足浴・シャワー浴など希望に応じ楽しい入浴支援が行われている。入浴拒否の方へも職員の言葉かけやタイミングにて個別対応をし清潔保持に努めている。浴室・脱衣所ともに安全に配慮し整理整頓されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族からの聞き取りを反映した役割や楽しみごとの支援が行われている。季節ごとのドライブや貼り絵・ちぎり絵制作・入居者より紐の結び方をおそわっての干し柿作り・ラッキョウ漬けは皮をむくことから行われた。飲酒を楽しむにしている入居者のため幾種かのアルコールも用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調や天候を配慮し、近くの商店街での食材の買出しや、近隣の散歩、クリーニング店・銀行利用に付き添うなどできるだけ外出の機会を支援している。今後外出時のマニュアルを作成予定である。	○	ご家族からの要望もある日常的な外出支援が、今後も日々の生活に無理なく取り入れられ、合わせて外出時のマニュアル作成に期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの心理的な弊害については全職員認識し鍵をかけないケアを実践している。戸締りをしないと安心されない入居者の場合は、一時的に施錠をし安心してもらうなど対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルの整備、備蓄の確保、リーダーによる自主点検(避難通路の物品有無・設備器具の異常の有無)などに取組み有事に備えている。これまでホーム独自の夜間想定避難訓練を実施、来月には消防署立会いで昼間対応訓練を予定している。(今後年2回訓練予定)	○	ホームの立地環境からも今後は運営推進会議などを利用し、地域の人々の参加による訓練実施が大いに期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつの摂取は毎回記録に残し健康管理を行っている。水分は三食時の汁物・お茶をはじめ夜間も数回に分け必ず手渡しによる確実な補給としている。食事形態も本人の前で食べやすい大きさにしたり、補助食品利用やジュースをシャーベットにするなど個々の好みや状態に合わせた支援である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	街中の住宅地にあるにも関わらず静かな環境にあるホームは、建物玄関、ホーム入り口、食堂をはじめいたるところに季節の草花や入居者の作品が飾られている。日当たりよいベランダを利用し野菜や植物が幾種も栽培されている。ホーム内は不快な臭いもなく、トイレは職員も共用し清潔・整頓を心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクローゼット・洗面台が設置されすっきりと整頓されている。入居者がこれまで使用していたワープロや空き箱のペン立て・家族の写真や愛読書などが持ち込まれ、居心地のよい居室となっている。熊本城や阿蘇の山々を居室によって眺めることができ入居者の安らぎとなっている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	地域密着型高齢者支援センター こ・こ(Co・Co)
(ユニット名)	グループホーム こ・こ(Co・Co)
所在地 (県・市町村名)	熊本市坪井3丁目9-27
記入者名 (管理者)	山田 立子
記入日	平成20年5月20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	月1回のスタッフ会議において理念に沿ったケアについて話し合い常に実践できるよう 認識を深めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まずは、「地域を知る事」「地域の方に知ってもらおう事」からはじめる。地域から求められる事業所になるよう取り組み、自治会長、民生委員との連携を図りながら、地域にいらっしゃるご高齢者への支援を地域の方と共に模索したい。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所の自己評価をする事によって本来の地域密着型サービスの意義を知り意識するようになった。職員間で、「地域とは何か」話し合いの場を持ち、通勤途中で会う方々へ必ず挨拶をする事から取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で生活場面や、行事(写真ファイル)を報告し、個々の変化等も伝えて認知症をもった一人の人の理解をして頂ける様に努めている。「TVの中だけかと思ったら実際に起こるんですね。」「今度地域で話して欲しい」。等の意見もきかれ理解を深めて頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類、記録面で不明な点は、TELで問い合わせたり指導をして頂いたり相談をしたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだ経験が無いが必要な場合は支援出来る様に準備する。	○	職員への説明は、まだ行っていない。今後勉強会等で知識を広げてゆく。地域包括支援センターへ依頼し学習会を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束も含めて虐待も視野に入れて法人の研修録や行政からの書類を元に職員間での認識を深めている。入浴時のボディチェック、ベットよりの転落防止等拘束をしないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、内容(利用料も含めて)を理解された上で契約させて頂ける様心がけている。今後も「重度化した場合における対応にかかる指針」も含めて十分な理解を得られるよう説明に留意したい。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>受付、ホームの玄関に意見、苦情をお書き頂ける様に準備すると共にご家族の来設時に意見を頂戴する様な関わりを心がけている。「献立に季節感がない。盛り付けの工夫。ご家族の好み」等の意見も頂き、旬の物を1品付ける。献立に合った食器。夫々の嗜好品など改善に努めた。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の生活での変化、体調の変化、発熱や内出血、歯痛など内容は異なるが、その日の内にご家族へ報告している。毎月1回ご本人様の写真が入った報告書を作成して送付している。特に県外在住のご家族に喜ばれている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつも気軽にお尋ねする。また話して頂けるような雰囲気作りに努めて居ます。また今回のアンケート調査の結果を真摯に受け止め対応してゆきたい。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の業務の中で管理者は、職員の意見を聞き反映させている。必要時事務長に報告、相談し早期解決に努めている。また毎月スタッフ会議を開催し意見を求め現場へ反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご入居者の都合に合わせ、又行事計画に合わせ柔軟に対応出来る様勤務調整を行なっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設後体調不良での退職者1名。馴染みの関係の必要性は法人としても理解している為移動は、少ないと思われる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外の研修にも出来るだけ参加できるように情報をファイルし行けなかった職員の為に資料もファイルする様にしている。また、直接のケアの中でも日々こえ掛けや、観察の視点など指導を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>事業所内の勉強会を計画的に実施し職員全員のスキルアップに繋げたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>熊本市のグループホーム協議会や、熊本県宅老所、グループホーム連絡会へ加入しネットワーク作りや勉強会の機会を持っている。他のグループホーム管理者に相談し指導を受けている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士が話し合える環境また管理者も職員と同じ業務を実施し問題点の共有が出来る。希望休は、可能な限り取り入れ連休も配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>やっと職員の個性がみえてきた(パートを含み5名新規)個々に合った役割分担を行ない責任感、向上心を持てる体制作りをする。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>言葉で表現する事が困難になっておられる方が殆どであるが、ゆっくりと傾聴する事を心がけご自身の出来る事、お困りの事一つずつを把握する事に努める。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込みに至るまでの背景、経過ご自身の生活歴、社会性等一つ一つをゆっくり傾聴し事業所にどのような期待を寄せて居られるのか、ご入居後のケアがスムーズに受け入れて頂ける様努力する。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の「その時」を受けとめると共に今まで支援された担当ケアマネージャーさんと他サービスの調整や対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご入居されて馴れられるまでは職員がいつも近くで寄り添う事から始め食事、おやつ時は他のご入居者と、ともにホールで召し上がっていただく。ご本人の好まれるレクリエーションへ誘い他者との交流の場を作り少しずつ環境や雰囲気にも馴染んでいただく様心がける。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で昔ながらの行事食やその云われを学び歌や格言今まで知らなかった風習などを聞いたり、長く生きてこられた人生の大先輩に学ぶ事の多さを感じている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪の機会を多くしご本人、ご家族との触れ合いの場を大切にしたい。また、ご入居者の情報交換を行ない一緒に考え共に介護する姿勢をもっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	県外在住のご家族へご本人と一緒にFAXをしたりTELをしたりなるべく来訪頂ける様な言葉掛けを行なう等連絡調整にも気を付けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店街へ一緒に買い物に出かける等をしている。知人の面会にもゆっくりして頂ける様な雰囲気作りにも配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	夫々の方がホールで自由に過ごしておられるとき、共通の話題で会話されている時は介入しないように気を付けている。また、難聴のある方の名前をお呼びしても気づかれないと、「呼ばれてますよ」と教えてくださったり「〇〇さんがお茶てよ」と教えて下さったりされますので直ぐに対応するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院の為退去された方が一名あり、状態の変化や心配な事をご家族からTELを頂く事もあり「元気になったらまた遊びに行きます」の言葉も聞かれた。いつでも遊びに来られるような環境作りに努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時、ご本人の要望とご家族の要望を傾聴し受け止めて、今の生活に反映し、よりその人の暮らしに近い生活が実現出来る様に努力している。例えば朝はゆっくり寝かして欲しい方の場合、起きてこられた時間に朝食をお出ししている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴がケアのベースになるため出来るだけ多くの情報を得られるよう担当ケアマネージャー、今迄生活されていた施設等へ情報提供を依頼している知り得た情報はご家族に相談しながらケアプランへ反映している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに基づいたケアの提供を行ないその時々で変化も大きい為朝、夕の申し送りを行ない把握に努めケア記録にも残しモニタリングへ反映する様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランのサービス内容を細かく立案しご家族に意見を伺ったり、職員の気付きを朱ペンでサービス内容に追加記入しながら介護サービスの提供をおこなっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々に合った介護ニーズが充足しているか？概ね3ヶ月毎のモニタリングで見直しを行なっている。状況が変わった場合もその都度ご家族へ連絡しケアの変更を行なっている手書きで追加記入をするなど、ご本人の現在の状況に即した介護計画であるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をはじめ食事、排泄、飲水のチェック表を記入しケア記録に於いては、ご本人の言葉や、職員の気づきを記入し情報の共有化に努めケアへ反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご要望は出来る限り受け入れる様にしている。「その人の今」をご家族様と共有し外出、外泊、食事等、ご家族様と過ごされる時間を大切に考え柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設のデイサービスと一緒にボランティアの受け入れや地域老人会の文化祭への出席をおこなった。活動の継続を図る。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までに他のサービスを必要とされる事例はないが、併設のデイサービスセンターとは、レクレーションやリハビリ方法など職員同士知識や意見の交換をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ出席頂き入居者状況を知って頂くと共に必要性が生じた場合は、円滑に連携をとり協働したい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科、皮膚科、眼科等必要に応じご家族と相談しながら受診し治療を受けられる様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者個々に生きてきた歴史が有り価値観の違いや、感性の違いがあらわれる。夫々を尊重した関わりを行なえる様努力する。排泄や入浴介助のこえ掛け、介助法にも注意し申し送り時も他者に漏れないように配慮する。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉での理解は困難でも物を見たり衣類を選ぶにしても一緒に選んだり、更衣して頂く。など、ご自分の希望を表出できるように支援している。例として、一緒に買い物に行きホールで利用する座布団を選んだりして頂いた。飲み物も熱い物、冷たい物と選択される。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしを大切にしよう心がけているが、全て一人ひとりのペースに合わせる事が出来ない現状がある。出来るだけ当日の勤務者で話し合い実行する様になりつつはあり今後も検討を重ねてゆく。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、ご本人や、ご家族からの依頼で職員が同行したりご家族と外出の際行かれたりされる。外出時はもとより化粧をするなどお洒落を楽しむことを忘れない支援をする。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する時、夫々の好物が分かってきたので取り入れる。行事食、バイキング 手作り弁当、近くの店で外食も取り入れている。日常的には味見、野菜の皮むき、盛り付け、テーブルを拭いたり食器の片付け等をその日の気分でお手伝い頂いている。干し柿作りや、手作り餃子、おやつ作りも行い楽しんでいただける努力をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人、ご家族の希望でビールを準備しご希望の際 提供している。飲み物は、10種類くらいは提供出来る様になっている。また忘年会、クリスマス会、お正月等特別な行事時は日本酒、ビールも皆様が飲まれる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し水分、乳製品、繊維の多い食品を提供する。また腹部マッサージ等を行ない自然排泄を促している。慢性の便秘症の方は緩下剤の処方が有るが排泄状況に合わせてコントロールしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日中を通じいつでも入れるようにしている。拒否をされた場合は、タイミングをずらし、その方が楽しく入浴して頂けるように心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、昼間もご本人様の生活パターンに合わせてお休み頂いていますが昼間はなるべく1時間程度で声掛けをして昼夜逆転にならないように気を付けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や、ご家族様の意見。何気ない日頃の会話の中から好みを見つけ「こ・こ」で生活する喜びを、ご自分がみい出せるよう支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全財産をご家族に渡さないでお持ちの方も居られ銀行や郵便局等の金融機関に行く事が楽しみにしておられる方の同行(少しずつ困難になりつつあられる)ご自身でお金を所持されている方は買い物に同行しご自分でお支払いをされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、クリーニング、銀行への付き添い、近辺の散歩などこえ掛けお誘いして戸外に出かけられる支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族との外出は、勿論、他のご入居者、職員で季節を感じられる場所、熊本市の名所等へ出掛けたりしている「何年も前に来た事が有る。熊本にこんな所があったのか」等の声を聞く事も有る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればご家族の状況に合わせ何時でも対応している。又近くにおいて聞こえなかったり、理解出来ないような時は代行してお話したりしている。ご希望によりお手紙を出しに行ったりFAX送信する事もある。年賀状や、絵手紙等を一緒に出来たらと、手漉き和紙を作成中である。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪して頂いた方とご入居者がゆっくりくつろいで過ごして頂ける様に、居室やホール等その時々で場所を選択して頂き飲み物を準備したり時にはおやつと一緒に召し上がって頂いたりする。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「人が人を拘束してはいけない事」「誰もが自由に過ごしたい」どうしても事故を回避できるかを考えるのが認知症ケア。しかしながらどうしてもやむを得ない場合のみマニュアルに沿って対応します。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事をケア上はしていない。行動の抑制に繋がる事も理解しているが、日常的に「戸締りはちゃんとしたか？」と不安がられるご入居者の前では一時的に夜間施錠をおこなって対応している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご入居者の方が今何処で何をされているのか職員は把握する様に努め排泄のこえ掛け、水分の促しが自然に行えるようにする。職員間のアイコンタクトが必要。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の能力に応じて危険物も異なる為夫々の能力を見極める。針仕事が好きな方には、仕事前後 針の数を一緒に数える。鋏使用時も近くから見守りを行う。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の誘因は何処にでも潜んでいる事を認識する。事例集や、インシデント・アクシデント報告書の記入を義務付け書く事や、カンファレンスで、分析して再発防止に努めてる。誤薬防止には、2名の職員がWチェックし服薬時には声出し確認を行っている。事故発生時はマニュアルに沿って対応する。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ご入居者の中には医療依存の高い方も居られる。想定出来る症状の観察や誤嚥の対応、症状に合った体位、119番通報、法人である病院への診察依頼など機会ある事に指導している。	○	マニュアルに沿っての研修会を開催、緊急時の連絡網の確認を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間火災を想定しての避難訓練は実施した年2回(内1回は消防署立会いで)昼、夜の訓練を計画している。現在まで夜間の訓練は実施した。	○	昼間対応の避難訓練を10月頃予定する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	来設の度に現在の状況をお話して起こり得るリスクに関しても合わせて説明している。ご家族の意見を伺いながら抑圧感の無い暮らしが出来る様に配慮している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の日課の中でバイタルを測定して大きな変化、いつもと違う行動、表情、言動、顔色等の観察を行い異常の早期発見に努める。職員間の情報の共有化、申し送りの徹底。必要時主治医へ、TELで報告、相談を行い敏速に対応する様努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から渡される薬事情報をその都度ファイルし薬剤の変更があった場合は、申し送りでの伝達。作用副作用を説明すると共に薬事情報を確認する様に指導している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解した上で水分、乳製品、食物繊維の多い食事に留意する。また、体操、散歩等で腸の蠕動運動を高める。またシグナルを見逃さずトイレ誘導をする。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔の清潔を保つ事の大切さを理解し毎食後個別にこえ掛け、ケースによっては職員も一緒に歯磨きを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後 また おやつ後摂取量の確認を行い水分量も一日1000～1500CCを目安に小まめに準備、手渡ししている。状況に応じてトロミを付ける等の工夫をしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	業務に入る前の手洗い、調理に入る前の手洗い、嗽、法人と共通の感染対策マニュアルを元に予防に努めている。玄関、受付にマスク、ウエルパスを設置している。シーズンにより予防注射の実施も行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用することを心がけ、買い物も週3回は、行く様になっている。ストックはあまり置かないが有るものについても保管に気を付け消費期限を守っている。布巾は、塩素酸系の洗剤で1日2回交換消毒。冷蔵庫内1日1回拭く事を業務に組み込んでいる。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花を植えたり物で視界を遮る様なことが無いようにしオープンに、中に気軽に入れるようにしている。特に玄関周りはいつも綺麗に心がけている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節感の有る草花を生けたり、植物の水栽培をしたり、トイレも職員が共用する事で小まめに整理している。時間帯の陽射しは、カーテンを利用している。ベランダの小さな庭にも季節の花や野菜を植え一緒に水撒きをしたりしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに2人掛けと3人掛けのソファを置きその横には畳のスペース(冬は掘りコタツ)何処でも自由にくつろげるまた食堂には2個の食卓があり自然と自席が決まり毎日同じ席に座られる。気の合った同士で隣同士に座り会話される事も見かけるようになった。	○ ホールの隅、窓辺に椅子を置き選択肢を広げたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具は、ご本人様、ご家族様が持ち込まれた物で日々使用されていた物やお気に入りの物である。夫々ご家族の写真や愛読書などを持ち込んで頂けるシステムにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご入居者と職員の体感温度の差を認識し自然空調管理に心かける。ホールには、温湿度計を設置し小まめに窓の開閉必要時加湿器、エアコンを使用している。又居室には個別にエアコンを設置している。居室を空けられる時間に声をかけて開放する。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ浴室各所に手摺を設置、またシルバーカーの使用も可能な廊下幅を有している。出来るだけ職員は手をかけることなく近くで見守り、ご自身の自立した生活が送れるよう心がけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	朝刊、夕刊をホールに届けたり、タンスの引き出しに中身を表示して使用されている方も居られる。ホールには、季節が認識出来る様に入居者様と一緒に季節感の有るものを作成して飾っている。(桜、菜の花、紫陽花、レインコート、傘、花火など)	○	大きな日めくりカレンダーの作成
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲には、花を植えている。ここは併設のデイサービスとの共用スペースである。2Fベランダの小さな庭には、季節の花や、野菜を植えて収穫したものを料理して食卓にだしている。実のなる植物は食べる楽しみがあるのでご入居者ご家族職員共に楽しみながら活動している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように

96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
		<input type="radio"/>	①大いに増えている
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

#### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- \*こ・こ (C o ・ C o) の名前の由来。二つの「C o」が意味するもの Community・・・地域(共同体) Cordial・・・真心のこもった。
- \*こ・この理念は、名前の由来を織り込んで「地域の皆様に親しまれ、真心のこもった介護サービスの提供を実現いたします」であり地域の中で社会資源の一つであることを認識し地域に根ざし、ご入居者様お一人おひとりに真心の込められたケアの提供に取り組めます。
- \*入居定員は、9名で完全個室(洋室)で、個々のプライバシーが保てます。使い慣れた馴染みの家具や寝具、ご家族様の写真、小物などを持ちこまれ今までの生活空間に近づけ安心して過ごされるように努めます。
- \*熊本市街地にあるグループホームですが一歩路地に入り静かな環境です。交通の便利良好。
- \*万一体調を崩されても、同法人に表参道吉田病院(藤崎宮参道沿い)があり医療連携はスムーズです。お食事も安全な食材で、変化のあるメニューを心かげご入居者様と一緒に手作りをします。また歳時記に応じたイベント食で楽しんで頂いています。